第193回
企画展

鳥海山

―火山災害と歴史―

▲山頂から千蛇谷（せんじゃだに）を流れ下る火山泥流の跡 昭和49年（個人提供）

▲火山灰の吹き溜まりとなった山頂の大物忌神社 昭和49年（酒田市立図書館蔵）

平成27年
9月18日（金）～
11月23日（月）

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 会期中無休

入館料 一般 100円、小学生～大学生 50円
（土日は小・中学生無料）
11月3日（文化の日）は入館料無料

酒田市立資料館
SAKATA CITY MUSEUM
〒998-0046 山形県酒田市一番町8番16号
TEL／FAX：0234-24-6544
E-mail：sakata-city-museum@city.sakata.yamagata.jp

鳥海山

－火山災害と歴史－

日本海を目の前にして優雅にそびえる鳥海山は、はるか昔から現在に至るまで、名所やランドマークとして、人々に親しまれてきました。山形、秋田両県にとっては宝の山でもあります。

ところが、「戦後最悪の火山災害」といわれた昨年長野県の御嶽山の噴火を受け、日本全国で火山の恐ろしさを強調する変化が生じています。

今回の企画展では、昭和49年の噴火を中心に、記録に残る鳥海山の噴火を振り返ります。火山の寿命は私たちの寿命よりはるかに長く、生きている間に次の噴火を目の当たりにすることはないかもしれません。

しかしながら「もしも」にそなえて、歴史から学ぶこともたくさんあるのではないでしょうか。

鳥海山 記録に残る主な噴火

貞観13年（871）

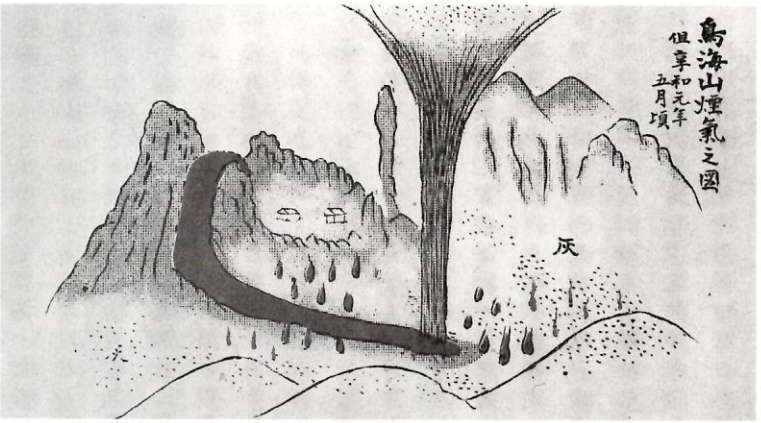
大噴火。「ふたつの大蛇有り、長さ十丈ばかり、相流れ出でて海の口に入り、小蛇の従う者、その数を知らず（日本三代実録）」とあることから、大規模な溶岩流が発生したと考えられる。

享和元年（1801）

大噴火。7月、荒神岳付近で大爆発、七高山と荒神岳の間に新山（享和岳）が誕生した。登山していた11名のうち8名が噴石に打たれて死亡した。

昭和49年（1974）

噴煙、小爆発。新山東側斜面、荒神岳西側斜面数か所から噴煙が出る。幸い大規模な災害には至らなかったが、融雪型火山泥流が発生した。



▲享和元年の噴火の様子（飽海郡誌より）

展示解説『噴火と防災』

日　時：10月17日（土）　10：00～　1時間程度
会　場：酒田市立資料館展示室
定　員：20名程度
料　金：無料（入館料別途必要）

電話にて申し込みください。駐車場に限りがございますので、申込み時にお問い合わせください。

問　TEL ０２３４－２４－６５４４

資料協力（五十音順）

浅間火山博物館	阿部辰修氏	粕谷昭二氏
上富良野町郷土館	木山由紀子氏	国立国会図書館
酒田市	酒田市立光丘文庫	酒田市立図書館
渋谷永一氏	鶴岡市郷土資料館	鳥海良明氏
畠中裕之氏	磐梯山噴火記念館	美斉津洋夫氏
堀勝幸氏	満行豊人氏	山形県立博物館

次回企画展

絵葉書 －懐かしい風景を探して－（仮）

平成27年11月28日（土）～平成28年2月7日（日）